

第1回 山科の未来を語る懇談会

日時 平成30年8月24日（金）17:30～19:40

場所 山科区役所 2階大会議室

委員 山科区自治連合会連絡協議会会長会副代表 内海 敏 委員
京都大学大学院工学研究科教授 川崎 雅史 委員
一般社団法人山科経済同友会会長 川中 長治 委員
山科区自治連合会連絡協議会会長会代表 住友 正歳 委員
京都薬科大学学生課長 高野 江里 委員
市民公募委員 高畑 咲季 委員
京都教育大学教職キャリア高度化センター教授 初田 幸隆 委員
京都橘大学健康科学部教授 日比野 英子 委員

配布資料 資料1-1 山科の未来を語る懇談会 委員名簿
資料1-2 山科の未来を語る懇談会 開催要綱
資料2 山科の未来を語る懇談会の開催について
資料3 今後の山科のまちづくりの方向性について
資料4 今後のスケジュールについて
参考資料 「第2期山科区基本計画等に関する区民アンケート」（集計結果）

1. 開会

事務局：

皆様お揃いでございますので、ただ今から、第1回 山科の未来を語る懇談会を開催させていただきます。各委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます、京都市総合企画局プロジェクト推進室長の松浦でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 懇談会の開催趣旨説明

事務局：

まずはじめに、当懇談会の開催趣旨につきまして説明させていただきます。

（資料2の説明）

また、当懇談会は、公開で開催させて頂いております。報道関係者および地域の皆様の傍聴席を設けておりますので、御了解のほどよろしくお願いいたします。

3. 総合企画局プロジェクト・情報化担当局長あいさつ

山本局長：

委員の皆様におかれましては、本日はお忙しい所、お越し頂きましてありがとうございます。また、委

員就任につきましても、快くお受け頂きまして、心から感謝申し上げます。

先ほど、司会からも説明がございましたが、京都市では、人口減少社会の克服や、経済の活性化等、京都の発展を展望しまして、将来のまちづくりを進めており、そのためには京都市が所有する土地だけではなく、国が所有する土地の活用を視野に入れて、取り組むことが必要であると考えています。国有地に関しましては、国に移転をはじめとした有効活用の検討を要望するなど、実現に向けて取組を進めているところです。後ほど説明をさせていただきますが、山科は豊かな自然に恵まれ、歴史や観光の資源が随所に残されており、また、伝統産業や先端産業等、産業の集積がございます。防災活動をはじめとした地域の活動が活発に行われておりますし、古くから交通の要衝でありますし、これだけの狭い地域であります。2つの大学が立地しているところでございます。魅力と可能性をたくさん持っている地域だと認識しております。申すまでもありませんが、こうした魅力は、本日お越しの、委員として参画して頂いております地域の皆様方が築いてこられた、あるいは守って来られたものだと考えています。

こちらも後ほど説明をさせていただきますが、今は元気で活力があるまちですが、一方では10年後、20年後に人口の減少、生産年齢人口の減少、少子高齢化の進行、それに伴いまして経済や地域の活力がなくなってしまうのではないかとということが予測できます。

このような中におきまして、山科の市街地の中心、地下鉄の駅から徒歩5分のところ、京都駅から約20分のところという大変利便性の高い場所に、広さ約10万7千㎡の京都刑務所がございます。この敷地を、地元山科のため、京都のため、新たなまちの魅力を創造するため、活性化・発展させるために活用させて頂けないかということを考えております。そのために、京都刑務所敷地の活用を核とした山科のまちの活性化に向けたまちづくり戦略を、今年度中に策定いたしまして、国に提示し、国での検討を促してまいりたいと考えております。この懇談会は、戦略の策定に当たりまして、皆様方からそれぞれの御立場・御見識から御意見・御助言を頂くために開催するものでございます。本日は、山科の現状や将来の見通し等を説明させていただきます。その後、まちづくりの大きな方向性について、幅広く御意見を賜れればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

4. 山科区長あいさつ

堀池区長：

本日は、委員の皆様には、お忙しい中、御出席を賜りまして大変ありがとうございます。

さて、山科区でございますが、本日は山科以外の委員の方もいらっしゃいますので、少し御紹介させていただきます。山科区は、今から42年前に、東山区山科から山科区として独立して誕生しました。その時に西京区も同様に右京区から分かれて、西京区として誕生しました。山科区と西京区は、京都市内に11ある行政区の中で最も新しい行政区でございます。一昨年は、区政40周年ということで、区民の皆様や関係団体、行政で盛大にお祝いをさせていただきました。

また、山科区役所の近くに勸修小学校がございますが、そのあたり一帯に中臣遺跡という縄文時代、弥生時代から多くの方が住んでいた広大な遺跡がございます。勸修小学校の近くにはその石碑が建てられておりますけれども、本当に豊かな歴史を持っている地域です。御陵という地名・駅名がございますが、7世紀には、その地名の由来となった天智天皇陵が作られ、その近くには西暦669年に山階寺が作られました。ほどなく、山階寺は奈良に移転し、奈良では興福寺となりました。14・15世紀には、山科本願寺を蓮如上人が作られました。これは単なる寺ではなく、この世の極楽とも呼ばれる広大な宗教都市を作られた

のですが、残念ながら消滅してしまいました。この土塁の跡が山科中央公園に残っています。

京都橋大学の近くには後白河上皇が作られた山科御所があり、こちらも大層美しかったそうです。

そのように、非常に歴史が豊かな土地ですが、人に着目しますと、中世には山科七郷という村落共同体のようなものが構成されていました。7つの郷が連携して自分達で郷の掟、ルール、規範を決め、今でいう住民自治がとても盛んに行われていました。その住民自治の伝統が、今も自治連合会等の色々な団体に脈々と受け継がれており、自分達のまちは自分達で良くしていこうという伝統が息づいているように思います。

このように、大変素晴らしい行政区・地域であると思っておりますが、この素晴らしい地域を守っていく、発展させていくためには、変えなければならない、変わっていかなければならないことがあろうかと思えます。

その一つが、先ほど山本局長からも話がありました京都刑務所の敷地の活用ということではないかと思えます。刑務所は、罪を犯した人が立ち直る矯正施設です。今、犯罪者の半分近くは2回、3回と罪を犯している人です。再犯を無くす、再犯を防ぐということが、安心安全の国づくり・まちづくりのためには欠かせないことで、その意味で、刑務所は非常に重要な施設であり必要な施設です。しかし、今、あの場所に刑務所が必要なかどうか、それがベストな土地利用なのかどうかは大いに議論をする必要があり、問題提起していきたいと思っております。90年前には二条城の近くにあったそうですが、見渡す限り田園地帯の山科に移転され今に至っています。刑務所の土地活用の問題も含めて、各委員の御専門の見地や様々な角度から御議論を賜りまして、最終的には戦略として取りまとめていくということでございますので、地域の住民の皆様、そして、我々地域行政に携わる者それぞれが力を合わせて、その戦略や会議の議論を踏まえたまちづくりをしていきたいと思っております。どうぞ本日はよろしく願いいたします。

5. 委員紹介

資料1-1に基づき、各委員を紹介。

6. 会長の指名

事務局：

資料1-2の開催要綱の第4条に、『市長は、委員のうちから懇談会の会長を指名する』こととしております。予め協議をさせて頂いておりますが、事務局といたしましては会長に川崎委員に御就任頂ければと思っておりますが、皆様よろしいでしょうか。

〔「異議なし」との発言あり〕

ありがとうございます。それでは川崎委員に、会長に御就任いただきます。川崎会長、よろしく願いいたします。

7. 会長あいさつ

川崎会長：

会長に御指名を頂きました川崎でございます。京都で生まれ育ちましたが山科に住んでおらず、よく分からないことも多々あるかと思っておりますが、皆様に色々教えて頂きながら進めたいと思っております。区長の御挨拶にありましたように、刑務所が議論のきっかけではありますが、山科がこれからの成熟型の社会へ向か

ってどのような都市のあり方を求め、どのように地域力・人間力を高めていくのかということが議論の主要な目的になろうかと思えます。ぜひとも皆様に忌憚のない御意見を頂きたく、どうぞよろしくお願いたします。

懇談会開催要綱に基づきまして、会長の職務代理者を指名させて頂きます。職務代理者は、初田幸隆委員にお願いしたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

8. 議題

(資料3の説明の後、意見交換)

(1) 山科の魅力、「まち」「ひと」の現状と将来見通しについて

内海委員：

山科区自治連合会連絡協議会副会長の内海でございます。京都薬科大学のグラウンドの横にございます鏡山小学校区の自治連の会長をしております。私は昭和25年3月生まれ、団塊の世代の最終くらいになろうかと思えます。五条通の五条坂からトンネルを超えて右にカーブしながら坂を下った左側のあたりで、息子と農業をしております。トマト・キュウリ・なす等をハウス栽培しており、「山科なす」も少し作っております。息子との仕事の分担では、新しい農業としてイチゴやメロンを息子が担当しており、息子は息子で山科の農業を頑張っていると思えます。

山科について御説明頂き、納得するものや驚くものがありました。

新十条通の無料化に伴う車の通行量の増加が最も心配に思っています。京都刑務所については、通っていた山科中学校のテニスコートの隣に刑務所の畑があり、刑務所の畑を通して通学しているクラスメイトや生徒を見ていましたので、子どもころから何とも思っていませんでした。しかし地図を見ると、刑務所が山科の中央に位置しており、地下鉄の駅に近く、外環が真横にあり、もったいないというのが今の心情です。

川中委員：

山科経済同友会会長の川中です。生まれも育ちも山科で、年齢は内海委員の少し先輩にあたります。私も山科中学校に通っていました。その頃の山科は田畑が多く、京都刑務所では収容者が働いておられたことを記憶しています。今、山科経済同友会に属しており、地域活性の中で、環境の問題、青少年の健全育成、山科の経済振興のみならず地域振興等の活動に取り組んでおります。

平成28年の山科区40周年の際に、堀池区長、橘大学の皆様、色々な方々の御協力により山科検定を開始しました。その山科検定は今年で3回目となります。山科検定に関しては、山科の歴史、文化、産業等への理解を深め、山科への愛着を一層醸成するとともに、山科の魅力を未来を担う若い世代に継承するため、また、山科の良さを発信していこうということで、実施するものであります。

先ほどの説明の中で、昭和30～37年において、京都市が地方財政再建団体に指定されたとありました。今で言うところの赤字転落という状態だったのだと思えますが、昭和37年には立ち上がったのではないかと思います。その頃、山科区は東山区山科に属しておりました。東山には、神社仏閣、文化財が多くある一方で、山科はそういった資源が少なかったため努力し、努力の結果が人口急増期に繋がったと思えます。その間に、昭和30年代後半～40年代の京都市では、山科や西京で住宅が増加して、スプロール化や市街化が進行しました。

その後、昭和43～48年に京都市住宅供給公社の分譲住宅や市営住宅が増加したことで、昭和51年に京

都市山科区として東山区から独立することに繋がったと思います。昭和 51 年以降、平成 30 年までに、地下鉄東西線や京都高速が開通しました。また来年には、京都高速新十条通が無料化されます。

山科は「陸の孤島」と言われてきました。同じ京都市でありながら、山 1 つ東にあるということで、色々な整備が立ち遅れてきたように思います。今後は、山科の空き地や都市基盤の充実という面に、行政も目を向けて頂けるものと思いますし、私も微力ながら協力していきたいと思っております。

住友委員：

山科は便利けれども通過地である、ということは以前より言われてきました。山科駅の利用者数は京都市内で 3 番目ですが、通過するだけであるために、駅前の狭いエリアのみで成り立ってしまっています。これでは開発が遅れていくのではないかと思います。

疏水の通船の三井寺から蹴上まで行くルートにおいても、山科の船だまりで下りる人は少なく、通過地点になっています。これは、三井寺で乗船するとすぐにトンネルがあり、トンネルを抜けて約 1 km で山科の船だまりになってしまい、トンネルの中を通るばかりで景色が見えず、「蹴上まで行こう」という流れになるためだと思います。

空き家対策については、山科区の 13 学区すべてで取り組んでいます。山階学区では、2 階建のアパート 2 棟のうち片方の外壁が崩落し、大変なことになっていたケースがありました。行政に所有者を探して頂き、対応も行政からお願いをして頂いたところ、スムーズに対処して頂くことができました。もう片方の棟は、居住者が 3 月に退去された後に解体し、現在は更地になっています。

また、台湾の方が所有しているまちなかの空き家では、民泊にしたいという要望があり、自治会でも話し合いを行なった上、要望を契約書に落とし込んだ上で民泊施設になりました。施設は高頻度で利用されているようですが、ゴミの搬出等についても、所有者様が都度確認の上で出されており、近隣の迷惑にはなっていない状況です。

資料 P11 の山科の年表について、御理解をして頂きたいことがあります。現在の山階小学校は開校され 147 年目で、行政上は勸修小学校が最初に建てられたとされています。山階小学校は、勸修小学校より 2 ヶ月早く立ち上げられましたが、6 ヶ月後に校舎を建てて校名を山階小学校とした時には、既に勸修小学校が完成しておりました。そのため、勸修小学校が 1 番古く、山階小学校が 2 番目に古い小学校ということになっています。

山科は、出生率が高いにもかかわらず、就学児が少ないと言われていますが、その通りだと思います。京都市内へ行くのが便利ですので、そちらの私学へ進学する子どもが多くいます。それは、保護者が望まれて私学へ進学させているのだと思いますが、中学校になりますとさらに顕著になります。ここ 3 年くらいは、京都市内の私立中学校へ進学する子どもが増えてきています。

日比野委員：

京都橘大学で勤務しています。地域連携活動では地域の皆様のお力をお借りして、教育と研究を展開させて頂いております。京都橘大学にとっては、地域連携活動は無くしてはならないものです。教学理念が、「自立」「共生」「臨床の知」ということで、地域に学び、地域で学んだことを、また地域にお返しできるような教育を理想としております。地域の皆様には日頃から感謝しております。

急速な高齢化という課題があります。これについては、私どもの大学でも高齢者の方々の健康支援をしており、これまでも、またこれからも実践を展開したいと思っております。体力測定、健康相談等、それともう一つ大切なこととしては、生きがいを持つことと、健康寿命の延伸だと思います。元気な高齢者が

多いということは非常にうれしいことですが、高齢者自らが、御自身の健康に向かってますます努力されるような、そういった仕掛け・仕組み・施設を作ることが大事だと思っています。私どもの大学でも、教職員・学生が、様々な活動をしていますが、それらを総合的に組み合わせたような仕組み・仕掛け・施設が必要だと思っています。高齢者がたくさんいらっしやることは決してネガティブなことだと思っていません。「山科に行けば楽しい生活が送れる」と、高齢者に来て頂けるような、そのようなまちになるのも一つのあり方ではないかと思えます。そのような意味でも、積極的に高齢者の支援を展開したいと思っています。

住友委員のお話にありましたように、山科は、生まれる子どもは少なくありません。子ども達は社会の宝です。山科で生まれた子どもを山科で育てて頂き、山科で大人になって頂くために、親にとって子育てに魅力的な仕組み・仕掛け・施設をこの地に作りたいと思っています。山科の小学校をもっと魅力的にする、中学校をもっと魅力的にする、ということはもちろんのことですが、住まいを山科に持ちながら、色々な学校に通って頂くということも一つの有り様かと思えます。そのために、親にとって子育てしやすい最適な場所が山科となり、京都市内でも有数の支援がある仕掛け・仕組み・施設を、ぜひ作って行きたいと思っています。

私たちは地域連携活動を展開していますが、まだまだだと思っています。幸い、私たちはそのようなことでお役に立つであろう教職員・学生を抱えています。地域と一緒に推し進めたいと思っています。

もしも刑務所の土地の活用が実現しそうなら、今、申し上げたような、高齢者の支援、若い御家族への支援を組み合わせることができるような、総合的な施設を作ることが可能だと思います。高齢者は、若い世代が活動している傍にいらっしやるだけで、随分違うと思えます。

新十条通の無料化や、便利な地下鉄があります。小さな子を持つ家族にとっては、車が便利だと思いますが、市内からの皆さんにも活用して頂けるような、専門性を備えた施設にできたら素敵だと夢を描いているところです。

初田委員：

京都教育大学から参りました。教育の面では、先ほどもお話にありましたように、いわゆる就学世代が流出してしまうことが課題になっており、そのために私が今ここにいると考えています。

私と山科の関係を少しお話させていただきます。私は、元々、醍醐地域の中学校の教諭でした。この辺りの子どももMOMOテラスに行ったりしていますが、色々な生徒指導上の問題は山科署が所管しており、醍醐と山科は地縁的な繋がりがありました。他にも、私は東山の東山開晴館という小中一貫校の校長を5年間務めました。校長会は山科と東山と一緒に情報交換をしておりましたので、山科についても若干の情報を得ていました。

山科のある地域では、通塾率が80%を超えています。これは京都市内のどの小学校よりも高い通塾率で、この小学校の子どもの公立中学校への進学状況で言いますと、50%を超える子どもが私学に進学しています。公立中学校が信頼されていないということです。中学校で頑張っておられる先生方には非常に申し訳ないですが、現状として数字が物語っています。公教育がどれだけ信頼されるものになるのかということが重要です。

川中委員がおっしゃいましたように、昭和40年代からドーナツ化現象で、西京、北区の一部、山科、向島にニュータウンができました。西京は、かなり少子化が進んでおり、小学校・中学校の規模がどんどん縮小されています。向島でも縮小されています。縮小されている中で、向島は向島秀蓮という施設一体

型小中一貫校を作ろうとしています。ところが山科の小学校・中学校は、いずれも統合になるほどの規模にはなっていません。最も生徒数の少ない安祥寺中学校で現在 289 名います。ここに来る山階・西野・安朱の各小学校の児童を合わせると 750 人程度です。これらを全て一緒にすると 1,000 人を超える小中一貫校になってしまいますが、これが最も小さい規模です。ですから、私は施設一体型を目指すのではなく、質の高い教育を提供する小中一貫校としてどのようにするのが必要だと考えます。

今後、2030 年・2040 年頃には人工知能がどんどん入ってくるでしょう。教育のテクノロジーも変わっていると思います。最先端の技術を、この山科の小・中学校でどのように導入できるのかを考える必要があります。

一部ではタクシーの自動運転化が進んでいます。農業に AI をどのように取り入れるのか、山科駅前の商業施設にどのように AI を取り入れるのか、言い方は良くありませんが、こういったことの「壮大な実験場」として、山科のまちをハイテクのまちを作る一つの拠点としてはいかがでしょうか。例えば、刑務所敷地に色々な最先端技術を持っている民間企業が入り、取り組んでおられることをまちづくりの中で実際にやって頂くということが考えられます。また、滋賀県に、立命館大学、龍谷大学があります。山科にも 2 つの大学があります。このような大学の知見も取り込みながら、日本の最先端の技術を取り入れることができる、そういった意味で魅力あるまちづくりが進めて行けないかなと考えています。

高畑委員：

市民公募委員として参加させていただきます。現在は丸太町にある平安女学院大学に通っており、国際観光学部 4 回生です。大学時代は、京都学生祭典という学生団体に属しており、「学生の力で京都を盛り上げよう」というスローガンのもと、祭りを開催しておりました。山科は、小学 3 年生の時に引っ越してきてから住んで 12 年目になります。

先日、京都学生祭典の友人が京都市営地下鉄の 1 日乗車券を購入し、各駅で下車して地域を巡る旅をしていました。その際、山科に住んでいる私に「山科でおすすめのところはないか」と連絡がありました。その時は、すぐにその連絡を確認できなかったため、山科の案内ができませんでした。友人は、駅に降りてどこを見て回ったらいいかわからなかったため、すぐに帰ってしまったという話を聞き、とても残念に思いました。遅れて連絡を確認した私も、もしリアルタイムで連絡を受けていたら、山科のどこを案内したんだろうと考えましたが、すぐに思いつくこともできず、それについてもすごく悔しい思いをしました。

先ほど、住友委員もおっしゃったように、山科は交通の便が非常に良く、それは住んでいる私にとって、とても住みやすいまちだと感じています。今回この懇談会に参加させて頂くことで、住んでいる人にとっても住みやすいまちでもあり、訪れる人にとっても魅力あるまちにしていきたいという思いを強くしています。一市民、一学生としての意見になりますが、何かプラスになる意見ができればと考えています。

高野委員：

京都薬科大学事務局学生課長の高野でございます。普段は、学生の勉学以外の様々な学生支援・サポートをしております。京都薬科大学は創立 130 年を超えましたが、この山科へは昭和 7 年、京都刑務所が移転してきた 5 年後に移転してきました。以降、約 2 万人の学生が山科から巣立ち、薬剤師として日本全国で様々な形で医療に携わる業務に就いております。大学は山科駅から近く、とても便利ですので、受験生が大学を選択する上での選択肢の一つにもなっております。今後ますます山科が住みやすく、安全安心で豊かなまちになることを願っています。

大学では、子どもたちが理科や実験を好きになるような理科実験講座を夏休みに開催させて頂く他、地

域の祭りに学生が参加する等、小さい形ではありますが、できる範囲で地域貢献を行っております。

卒業生は、高齢化社会における在宅医療や地域医療で、薬剤師として各地域の住民の方の中に入っているかなければなりません。山科においても今まで以上に卒業生が活躍できる場が増えてくると思っております。

私は山科に住んで 20 数年が経過しました。山科はどこからでも山が見え、交通も便利になり、大変住みやすいまちだと思います。夜に J R 山科駅のホームに降り立った時の空気がとても澄んでいて「山科に帰ってきた」というほっとした気持ちになります。とても快適に住まわせて頂いております。

刑務所がもし移転するというのであれば、先ほど、初田委員のお話にもありましたが、教育や医療、文化、芸術等が融合できるようなまちになり、多くの市民、区民が足を踏み入れる場所になってほしいと思っております。

京都市、京都府は健康長寿のまちということで、京都食育推進プランに取り組んでおられます。山科は「山科なす」等、様々な特産品があります。人は、「健康に良い食」等の情報があれば、遠くても買いに行ったり食べに行ったりしますので、山科の農業を発展させて、山科の魅力の一つにできれば良いのではとも思っております。

川崎会長：

皆様の意見をお聞きしますと、課題が色々な形で浮き彫りになってきます。既に、どのようにすればいいかというヒントまで頂いている御意見もあります。

内海委員から交通問題、新十条通の交通量の増加が心配であるという意見を頂きました。また、刑務所が中学校のすぐ近くにあるというお話がありましたが、私も先日、大きな刑務所の壁の横を地域の方が普通に通行されている風景を見て驚きました。刑務所は、通常閉じられた一つの世界で都市とは隔絶したもののですが、それが皆さんの日常に普通に存在して、慣れていらっしゃるようです。ただ、この日常の風景が私にとっては、大変不思議に感じました。

「陸の孤島」というキーワードが川中委員のお話にありました。立ち遅れているのではないかと厳しい御意見ですが、ある意味、そのような見方ができると思います。盆地であるということが当たり前のように書かれていますが、山科が盆地であるという意識はありませんでした。私は景観が専門です。京都の盆地を形成しているのは、三山と鴨川です。山のほりからまちが広がっているという意識があります。山科が、京都とはまた違った盆地であるということは認識していませんでした。

住友委員からは、通過地としての課題について御意見がありました。琵琶湖疏水の活用についても大きなポイントです。京都では、山の周辺に寺院等があり、ほりが重要になっています。山科には「ほり」があるのかということも考える契機になります。

空き家対策においては、コミュニティの強さが発揮され、民泊施設となっている 2 件のケースの御紹介がありました。外部に周知されていない「コミュニティの強さ」が一つの大きな魅力だと思います。

都市計画では、地方創生や C C R C 等、アクティブシニアの方々をどのように活性化して都市の中に取り込むかが重要な課題です。そこで、日比野委員からは、仕掛けと仕組みが必要であるという御意見がありました。ソフト面に加え、それが動きやすい形を作っていかなければならないという御意見と思います。

初田委員からは「壮大な実験場」という非常にインパクトのある言葉を頂きました。教育の御経験から山科の魅力を上げるために、先端産業、先端研究、大学の知的、人的資源等、それぞれが総合化し、まとまった土地で実験をすることが重要であるという御意見がありました。山科に行けば教育の最先端の支援

がある、山科に行けばストレスや病気が治る健康のヒントが得られるような場所である、というような、日比野委員、初田委員の御意見は、今回の重要なテーマに踏み込んで頂いたと思います。

高畑委員からは、山科は案内しにくいという御意見がありました。私もそのように思っています。交通の便が良く、来るまでは分かりやすいが、来てからはわかりにくい状況です。ケビン・リンチの都市イメージにもあるように、簡単に絵に描いて人に伝えられるくらいの地理的な都市のイメージがないといけないと思っています。観光の可能性があるということは川中委員の御意見にもありました。そのようなところに結びつけるには、わかりやすいガイドマップ等が必要でしょう。また、PR戦略も課題の遡上に上ってこなければなりません。例えば京都駅等で、「山科にはこのような魅力があります」「山科はこのようにわかりやすいまちです」と伝えなければなりません。これほどポテンシャルがありながら、外の人に伝わっていません。

高野委員からは、在宅医療や地域医療を見据えた学生の教育について、地域活動の中で実践していくこと等についての御意見がありました。非常に重要な御指摘でもあり、かつ新鮮に感じたのは、「山が見える」ということです。これは当たり前なのですが大きな特徴と思います。駅のホームに立った時の空気が澄んでいることも、重要なことです。京都の魅力は、京都は盆地なのでどこからも山が見えるということです。自然へのまなざしと人がどのように自然環境と交流していくのかということも重要です。医療の問題以外に、文化芸術が重要になります。市民アンケートでも、文化芸術活動の充実を望む声が多かったようですし、文化芸術が育たないまちは活性化しません。

(2) 今後の山科のまちづくりの方向性について

川崎会長：

山科のまちづくりの方向性について、「このようなまちになれば良い」という意見も含めて、皆さんから頂きたいと思います。手元の資料では、山科の賑わいの拠点である山科駅前、柳辻、山科が街道を基盤にしている都市であることが示され、まちを構造的に見ることが出来ます。拠点と拠点を繋ぐことが重要で、山科駅と柳辻周辺を、拠点として繋がなければ人は動きません。活動も繋がりません。まちは繋ぐことで生き生きとします。人と人も繋がなければ生き生きとしませんし、愛着は生まれません。刑務所敷地は、このような流動の大きな拠点として位置付けて、構造的に都市を理解し創造することが必要です。実験場として、商業施設だけではなく、知的産業、芸術、学生が集まる場所として活用する可能性を考えてはいかがでしょうか。例えば、学生祭典など交流イベントや祝祭的な活用などの場所としていいのではないかと思います。その辺り、学生さんの視点でどうでしょうか。

高畑委員：

何か人を呼び込んでイベントをすとなりますと、広い場所が必要です。そのためには、そこに来て頂く交通や、PRできる周辺の環境、協力して下さる地域の方のお力添えが必要になります。京都学生祭典では開催場所で悩むことも多く、苦労しています。地図で見ると、京都刑務所がとても広いということ、改めて実感しました。このような場所を、何かイベントが開催できる場所としてだけではなく、複合的に開発が進められれば、訪れる人だけでなく住んでいる人にもプラスになるように感じました。

川崎会長：

活動が見えること、施設を閉じるのではなく開いていくということですね。

高畑委員：

何があるのか開催者側がPRするだけでなく、周辺の方に興味を持って頂けるような作り方ができたらよいと思います。

住友委員：

資料に山科団地エリアという記載があります。山階学区の一部も山科団地に入っています。約50年余り前、大津から山科に転居してきた頃の団地祭と、今の団地祭は形態が全く変わっています。年齢層が上がっています。団地が開発された当時は、30歳代前半、20歳代後半の人が多くいました。その方たちのお手伝いをして、夕方から次の日の3時頃によく片付けができるというくらい、様々なイベントをすることで、参加者も多くいました。現在は高齢化が進み、高齢者が仕切っていることもあって子どもが少なく、やや寂しい祭りになっています。これは年齢の関係で致し方ないと思っていますが、この団地を活かさないのはもったいないと思っています。山科団地だけではなく、他の市営住宅も開発をしていく必要があると考えています。その際は、高層住宅ではなく、戸建ての形で開発をする方が住みやすいまちなると思います。団地エリア、刑務所エリア等、きちんと区分けをして開発を進めることができ、山科区の住みやすさに繋がっていくのであれば、開発は重要ではないかと思っています。

川崎会長：

団地エリアの開発が建設系の企業にとって採算が取れるものになるためには、やはり刑務所敷地が活性化しなければ開発も見込めないとも思いますので、このような面でも刑務所敷地の活用の一つの理由として挙げられるでしょう。

住友委員：

私どもの地域もそうですが、山科駅が近く住みやすい場所です。私の学区ではマンションが建つ余地はないと思っていましたが、まだまだ建ちそうな気配を感じます。11階建のマンションが建ちましたが、部屋は小さくワンルーム程度です。敷地が狭いため、高さを出さなければならない状況のようです。そこにお住まいになる方は、シングルもしくは高齢者です。3LDKの物件の場合、契約者が40歳代であっても、実際に居住する方は60～80歳代ということがあります。ローンのことを考えて息子が契約して、親が住むということですが、これも致し方ないことだと思います。駅前のエリアについては、交通利便性が高く、医療施設が多く、買物にも便利で、高齢者が住んでも良い環境にありますから、高齢化が進むことは無理もないと思います。

川崎会長：

一方で、柳辻エリアでは駅前の個性とは異なり、駅周辺とのコントラストを打ち出して、違う個性が打ち出せればということですね。

初田委員：

私なりの夢を先程述べさせてもらいましたが、山科団地は築年数が経っており、また、学校についても、かなり年数の経つ施設があると思います。しかし、これらを全て建替えるというような経済的余裕はないでしょう。従いまして、今の建物でその中に最先端を入れていくということが、汎用性が高いと思います。全てを新しくするのではなく、今あるものを使いながら、この刑務所エリアでは、企業が開発していこうという技術や色々な産業の拠点として機能させてはいかがでしょうか。農業エリアもあれば、商業エリアもありますから、その最先端がどう関わっていくかということをやっていく「壮大な実験場」として、日本の最先端のまちを作っていくということです。例えば交通安全では、信号で何分何秒止まるというよう

なことが、AIが進めば、どんどん変わっていきます。そこから仕事生まれ、雇用が変わっていきます。私はそのような夢を持っています。

川崎会長：

そこからまた仕事が発生してくるといいですね。

日比野委員：

今、雇用のお話が出たところでこのような可能性は考えられないでしょうか。AIが活用されて、一つ一つの作業の工程がシンプルになる可能性があれば、高齢者のお力を注いで頂くことが可能になると思います。AI化も大事ですが、元気な高齢者のお力など、山科にある資源を結び付ける仕掛けをつくることによって、可能性はさらに広がると思います。

川中委員：

刑務所の敷地をいかに活用するかという高度なレベルで御意見が交わされています。刑務所の移転はありきだと思います。山科駅前の拠点の一つの拠点となっています。柳辻、刑務所が山科駅前の次に重要であるということも理解しています。刑務所が移転した後は、まずは交通の基盤が問題になると思います。外環から少し入り込んでいますので、その都市計画の議論の必要性もあると思います。

阪神高速8号京都線の新十条通が来年無料になります。また、延伸問題があります。これはどのようになっていくのか、外環状線と繋げて北を向くのか、南の桃山を向くのか。今はT型になっています。そのようなお話も、近い将来はこのようになるという構想を含めて議論されるものだと思っていました。皆さんの御意見を伺っていますと、刑務所の敷地活用の話に入り過ぎていたので、ちょっと先走り過ぎ、風呂敷を広げ過ぎで、後に戻れなくなるのではないかと思います。

川崎会長：

交通基盤の問題は重要です。これはこれで一つの議論になっていくと思います。良いイメージを描くには自由に、風呂敷は思いっきり発想を広げた方が良いと思っています。広げた後には、予算等の制約が自ずと色々出てきます。プロジェクトをやろうと思うと、どうしても先々でそういう制約が出て案が狭められますので、とりあえず今は、広げて意見を頂ければと思います。

(3) 今後のスケジュール

事務局：

(資料4の説明)

第2回の懇談会の日程につきましては、速やかに調整し、委員の皆様に変更御連絡させていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

9. 京都市長あいさつ

門川市長：

こんばんは。昨日は台風でそれぞれ大変だったと思いますが、幸い、山科には大きな被害がなく良かったです。本日は本当に御苦勞様でした。昨日でなくて良かったと思っています。川崎先生をはじめ、皆様、本当にありがとうございます。先ほどの話を聞かせて頂き、難しい課題ではあるものの、何かワクワクする感もあります。

プライベートなことで申し訳ありませんが、私は、今は京都国際マンガミュージアムになっている、烏

丸御池の龍池小学校の出身です。戦前、非常に裕福な方が、龍池小学校に山科の東野の土地を寄付され、龍池小学校の校外学舎になりました。小学1年生から6年生まで、毎月1回、校外学舎へバスで行って1日を過ごし、夏は1泊するというものがありました。校外学舎からは京都刑務所が近くに見えました。1年に1回うさぎ狩りがあり、「ふるさと」という歌がぴったりと合う経験をしました。都会に住みながら山科に通わせて頂いた私にとっては、山科がふるさとのように感じます。五十数年前の話です。四十数年前には、山科も都心になってしまったということで、学舎は大原の田んぼの中に移されました。今は住宅地が広がっていますが、私は田植えもしたし、オタマジャクシを追いかけた友だちは野壺にはまりもしたし、そのような経験をさせて頂いた山科は、大好きな地です。

話は変わりますが、大津の越市長が琵琶湖通船を復活させると公約にされ、私が一緒にやろうと思った率直な動機は、山科の魅力発信です。大津の魅力はそれなりに発信されています。琵琶湖通船は、「琵琶湖通船」と言われていますが、本来は山科通船です。山科には1,400年の歴史があります。山科の人は、「平安京は1,200年の歴史けれども山科は1,400年の歴史がある」とおっしゃいます。山科が栄え始めた頃、平安京はまだ草原でした。山科はこのような歴史ある所です。

私たちの取組の課題はまだあります。宇治は観光地として全国に名を轟かせています。宇治郡山科村だった山科は、経済同友会をはじめ、皆様が一生懸命取り組まれています。山科の観光の認知度は極めて低いものです。しかし山科には資料にもあるように、素晴らしい伝統・歴史・文化・自然があり、何よりも地域力が強い地域です。一つのまちとして全てが整っています。そのようなところに、京都薬科大学と京都橘大学という2つの大学があります。これもすごいことです。清水焼団地等、魅力に溢れています。それと同時に、この4年間、犯罪を減らそうと地域を上げて取り組んで頂き、京都市内11行政区で平均を下回るどころか、西京区に次ぐ2番目に人口当たりの犯罪数が少ない、安全安心のまちとなりました。これほど魅力に溢れたところですが、これからどうするのかということが課題になっています。「過去を語るは老人なり、未来を語るは青年なり」という言葉のように、思い切り未来を語って頂こうという中で、大きな軸が京都刑務所だと思っています。私が市長に就任してからしばらく後に、谷垣先生が法務大臣に就かれました。地下鉄の増客が私の一番の課題でもありましたので、「山科の人も私も含め、京都市民は京都刑務所を決して迷惑施設だとは思っていません。しかし、地下鉄を降りて5分の住宅街のど真ん中に10万7千㎡の敷地があり、これを何とかして頂きたい。これは、京都だけではなく関西全体の活性化のためにも、地方創生のためにもなります。」とすぐに直訴しました。「矯正局長に言いに行くように」とのことでしたので、それ以降は毎年、大臣、事務次官、矯正局長に要望し続けています。正直に言います。そう簡単にできるとは思っておりません。しかし、山科に地下鉄が通り、新十条通が通りました。これは、30年、40年前から構想して開通しました。京都の近郊には、大きく発展してきたものの鉄道の駅前が再開発できておらず、そこにバスが着かないという都市がたくさんあります。今、地下鉄は借金でものすごく苦しんでいますが、山科は地下鉄を通し、再開発をしました。これは、偉大なことでした。あれがなければ、山科はどうなっていたらだろうか。醍醐はどうなっていたらだろうか。未来に向かって困難な課題に挑戦することが、私たち行政、政治の仕事ではないでしょうか。しかし、これを行政、政治主導で実行してはなりません。いかに地域の方が「自分ごと」として、地域の「みんなごと」として議論し、その気になって大きな大きな課題に取り組み、次の世代のためにも道を開いていくということではないでしょうか。過去を語ってはいけませんが、もし、30年前にこういう構想があれば変わっていたかもしれません。課題は厳しいですが、刑務所のことだけではなく、山科全体のことに皆で本気に取り組むことが必要です。

私の市長就任2年目は、ボストンとの姉妹都市50周年の年でしたので、ボストンへ行き、まちづくりのシンポジウムをハーバード大学の先生方と一緒に開催しました。ボストンには過去に刑務所があり、その刑務所が、大変面白いレストランとホテルになっていました。扉を開けると「自由への扉」と書かれているのです。ウェイターやウェイトレスは、看守の服をおしゃれにアレンジした制服を着ています。四人のようなメニューにしていますが、食べるとおいしいのです。アメリカンジョークを地で行っておられます。奈良の少年刑務所も、ホテルやレストランになろうとしています。

京都市での再開発に成功した事例では、京都リサーチパークという大阪ガスのタンク跡地があります。素晴らしいこの京都リサーチパークは、29年前にオープンしました。大阪ガスは、URの公団住宅にでもしようと考えておられましたが、新たな産業を興す、大学、行政、企業が協力・連携するまちになり、現在、420社が入居し、4200人が働いています。このタンクの跡地は、京都刑務所の半分くらいの広さの土地です。

先人たちの名誉の為に申し上げますと、平成14年まで工場等制限法という法律があり、京都市内では1,500㎡以上のキャンパスや、1,000㎡以上の工場を新しく作ってはいけないとされていました。田中角栄さんの時代の列島改造論で、地方には大学や工場がどんどん作られました。都市には住宅地や団地はできました。しかし、働く場は京都市内に作れず、多くが滋賀県等に作られました。これが現実でした。重厚長大の時代はそれもやむを得なかったかもしれません。これから色々な産業が新たになる時代が来ている。山科だけではなく、京都市内全体で見て、住むところだけでなく、働く場がなければ若い方は住まないと思います。これまでは、大阪市内に働く人が洛西ニュータウンに住みました。ですが、大阪市内にタワーマンションができたことで、そちらに移って行かれました。新たな職住近接のようなことを考えていかなければ、若い人が住まないということも実感しています。

全てを含めて議論して頂き、そして、大風呂敷を広げて、広げた風呂敷はどこかで包んでいかないといけないですが、10年後20年後に、このメンバーで同窓会をした時に、あの議論が良かったと振り返られるようにしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

10. 閉会

事務局：

これを持ちまして、第1回 山科の未来を語る懇談会を閉会させていただきます。

皆様、本日は、どうもありがとうございました。

以上